

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第79号

ななえ古写真物語

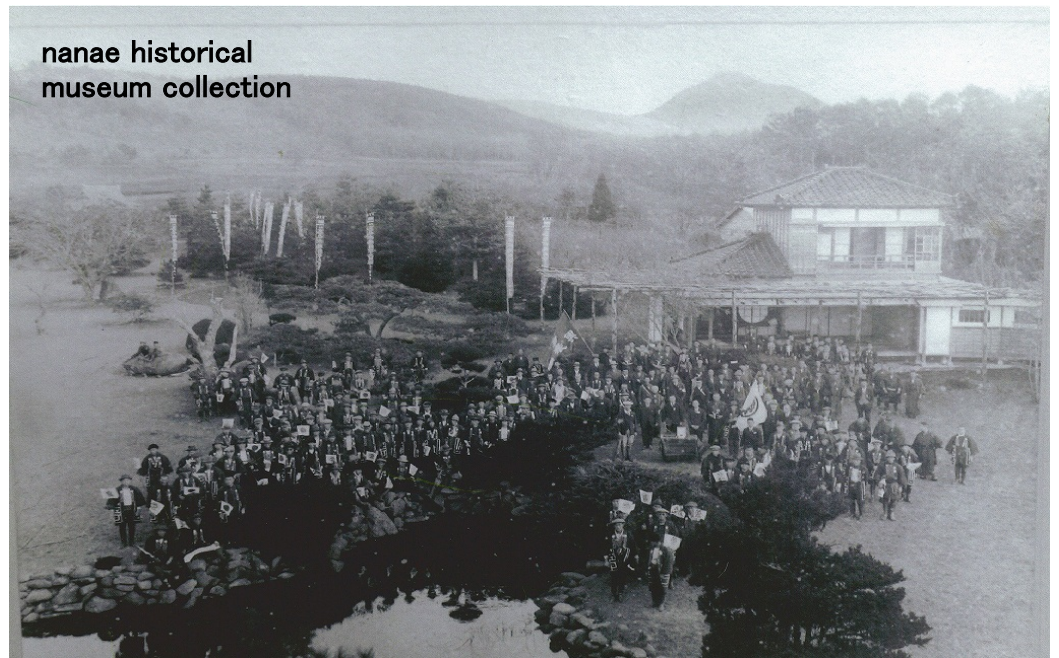
VOL. 79

明治の庭園

静観園の歴史

大正12年

ニンニク沢地区



「昔、敵に追われた武士が、疲れと空腹に耐えかねて、穴をほって持っていた黄金を埋め、あとで掘り出す時の目印にと、このあたりでは自生しないニンニクを植え立ち去ったという。それから長い年月がたち、この辺りにニンニクが野生するようになった。」こんな伝説が残るのが、現在、函館市と七飯町の境目あたりにある蒜（ニンニク）沢と呼ばれる地区である（地名としては大川地区に相当）。

現在、この辺りでニンニクが自生しているか確認はしていないが、もしかしたら、まだ黄金が眠っているかもしれない。

このニンニク沢地区の開拓の歴史は、安政年間に五十嵐要輔という人物が、開拓請負人となり土地を取得したことに始まる。五十嵐は暇さえあれば、家に閉じこもって念仏を唱えていたので、後に彼の住む家は、人々から念仏屋敷と呼ばれ、さらには「字念仏屋敷」という字名にまでなったというから、驚きである。

しかし、明治時代になると、五十嵐家は経済的に困窮してしまい、宮崎松太郎という人物に全所有地を売りニンニク沢を去ったという。松太郎はその後、この土地に大きな別荘を建て、周囲に立派な日本庭園を造った。

その別荘と庭園の姿を写したのが、上に紹介した写真で、個人所有しているものを複製させて頂きました。写真を見ると、石垣に囲まれた池と和風建築の別荘。何かの祭でも催されているのか、法被を着て日の丸の旗を持つ多くの人々と、10数本の幟が建てられ、賑いを感じます。ずっと奥にひとつだけ突出した山は庄司山でしょうか、山に囲まれた閑静な庭園であることがわかります。

ところで、この庭園を造ったといわれるのが、江戸時代に巢鴨から入植して、七重村にあった御薬園の園丁長を務めたり、開拓使七重官園でも活躍、国道5号沿いにアカマツを植えた吉野鐵太郎という人物です。恐らく庭師としても有能な鐵太郎の腕を見込んで作らせたのでしょう。

鐵太郎が造ったこの庭園は「大和静観園」として今も残っています。春になると、染井吉野や関山といった桜が、数多く見られる隠れた桜の名所でもあります。残念ながら、ここ数年ほど手入れが行き届いていないのか、美しい庭園が、草地に変わりつつあります。

明治期に作られた歴史ある貴重な庭園。これから先どうなるのか危惧されます。

4日 夜の博物館の前期講座が始まりました。第一回は当館学芸員による「散歩ノススメ」です。家の周りの自然を楽しむためのちょっとした見方から、剥製を使って、鳥の調べ方のコツなどを解説。時折、写真スライドを用いて美しい植物や、日々かわる空の様子についても紹介しました。



21日 北海道立文書館様のご協力で、古文書教室を開催しました。午前中は、古文書の読み解きを、文書館の戸津川氏がわかりやすく指導。午後からは、当館学芸員が明治期の古写真や文書を使って、七飯町の養蚕業の歴史について講義しました。参加された方は、古文書から歴史が紐解かれる楽しさを堪能していたようでした。

28日 ジュニア探検クラブで、横津岳に登りました。ほとんど舗装された道とはいえ、七飯町で最も高い山。子どもたちもさぞ苦しいだろうと思いきや、意外にも涼しい顔で登りました。山頂で昼ごはんを食べた後は、雲井沼周辺の植物を観察しながら下山。終始元気な子どもたちをよそに、引率する側の方がやや疲れた表情でした。終了後「また登りたい人！」とたずねたら、手をあげた子は少なかったのですが・・・。



29日 横津の植物観察会を開催しました。森を散策しながら、植物たちのしたたかな(?)生き残り戦略について、講師の宗像氏から説明があると、参加者の顔が驚きに包まれながらも、次の瞬間、目が輝いている姿が印象的でした。季節を通して楽しめる横津岳のまた違った魅力を存分に感じた一日でした。

8月の予定

1	金
2	土
3	日
4	月
5	火
6	水 夜の博物館
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土 ジュニア探検クラブ
17	日
18	月
19	火
20	水
21	木
22	金
23	土
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土
31	日

※8月の休館日はありません。

巣立ち

当館横に置いてあった丸太にアカゲラが巣を作っていました。ひっそりと見守っていましたが、無事に巣立ち、ホッとしています。

編集後記 ~tawagoto~

そろそろ夏本番。すくすくと植物たちが成長する様を眺めながら、目をそむけていた現実がひとつ。それは草刈りだ。いくら機械を使っているとはいえ、この時期の雑草の伸び率は半端じゃなく、油断するとあっという間に畑が草原へ変貌する。これはマズイなど、数日かけて草刈りした結果、浅黒い肌がドス黒く変化しているではないか。フィールド調査をしているわけではないのに、変化していく自分の体色に戸惑う季節である。(やまだひさし)

Pichart ~ピチャリ~

第79号

平成26年7月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp